

## 2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型事業所としての使命を果たすべく、11の方針を定め、この方針のもと、日常生活支援および介護を実践している。ケア理念については、職員で話し合いを行い、現状に合わせた理念に作り変えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実現するために、ケアプランに反映し、ケアプランを実践することを職員全員が徹底している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への参加、ボランティアとの交流、認知症を理解してもらうための新聞発行や紙芝居を行うなどホームとしての役割を積極的に果たそうとしていることは大変評価したい。 現在、さらなる地域においてその役割を果たそうと、町、近隣事業所への働きかけを行なっている。		現在、保育園へ認知症について理解をしてもらえるような紙芝居を企画するなど、地域へ認知症に対する理解を得ることや福祉施設としての役割を果たそうと活動しているが、今後は、町、包括支援センター、その他の運営推進会議メンバー等からも他の事業所に対して働きかけてもらうなどの協力が得られることを期待する。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価をサービス実施内容を振り返り、改善に向けて活かしていこうという姿勢で臨んでいる。また、新任職員には、ホームが行うべきサービスの全体像を理解してもらうよう、外部評価項目について説明を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議をグループホームの運営状況を伝えたり、要望を聞き出す機会として活用している他、参加メンバーにホームの実態を理解していただく機会として、行事ボランティアとして参加してもらっている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町職員も行事ボランティアに参加してもらい、地域密着型事業所の実態を理解してもらおうと働きかけたり、施設長自身が町より委託された委員会にメンバーとして参加している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、金銭出納簿と家族向けの手紙を送り、入居者の様子を伝えたり、せせらぎハウスニュースの発行、ホーム内に行事の写真を掲示し、ホームの様子を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との会話を通じ、要望を聞き出したり、他の方法としては、アンケート調査の実施、意見箱を設置するなど苦情、要望を聞き出し、運営に活かしている。重要事項説明書には、苦情受付窓口が明記され、入居時に苦情受付に関する説明を行なっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員異動により、サービスの継続性が損なわれないよう配慮している。また、後任が戸惑わないよう利用者についての情報、ケア記録などが整理、保管されている。</p>		<p>過去の職員の異動のときに、一時的に利用者が不安定な状況になったこともあったようなので、職員の異動はやむを得ないが定着率が高まるよう、職員のフォローアップにホーム側として留意していただくことを望む。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成には力を入れており、隣接する特養との合同学習会、職員会議においてのケース研究発表会、また委員会活動において学習会を行うなどさまざまな取組みが行なわれている。外部研修にも必要に応じて参加させている。		
11	20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームが率先して、地域において、認知症に対する理解を得ることができるよう活動を行っていることは評価できるが、同業者との交流、情報交換などの連携という点においては、まだこれを深めていく余地がある。		地域の認知症ケアは地域にある事業所が使命として担っていることを理解し、それぞれの事業所が単独ではなく、情報交換など交流の機会を多く持ち、協同で認知症についての情報提供、相談機能の役割を果たしていくことなどの活動を行っていただくことを望む
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のヒアリングで、自宅での生活に関する情報や本人の状態を家族から聞き出したり、入居後は職員が入居者の様子に注視し、不安な状況にさせないよう心がけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員、利用者とのそれぞれが支えあいながら生活を共にしている様子が窺えた。職員、利用者がお互いに協力しながら食事の支度を行ったり、掃除を行うなど強制ではなく、それぞれ役割を持ちながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者個々のニーズに応えるべく、必要な情報（意向、生活歴など）を記録に残し、ケアに活かしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、家族の意見、アセスメントや支援経過記録に基づいて職員全員で話し合い、それぞれの入居者に合わせた計画が立てられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは、介護計画に基づくケアの実践状況を記録した支援経過記録などによる検証が職員全員で行われ、家族の要望なども考慮し、計画の見直しが行われている。また、入居者の状況が変わった場合には、随時見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームの他、隣接する特養の機能も必要に応じ活用しながら支援を行っている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月に2回程度かかりつけ医の訪問により診療を受けている。定期訪問以外にも必要に応じて受診を受けることができる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化対応については、指針に基づき、都度、家族・医師・職員と常にミーティングを行いながら方針を決めている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、入居者を敬うという気持ちを持ち、声かけやケアを行っており、入居者と良好なコミュニケーションが取れていることが確認できた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は、入居者の意思を可能な限り、すぐに叶えてあげようという姿勢でいることは大変評価できる。入居者のペースを大事にしており、急がせたり、職員の都合に合わせるような場面も見られなかった。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の段階から入居者と会話を楽しみながら、味付け、盛り付けなど入居者と職員が協力して行っていた。入居者が作業しやすいよう適度な高さのテーブルも用意されている。食事の時間は、職員は入居者の食事の様子をよく見ており、必要に応じてサポートもできている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に沿うよう時間、曜日の制限は設けられていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常会話や生活歴などから入居者ひとりひとりの役割や楽しみごとを見出し、手芸、書道、庭の手入れ、散歩など自由に行っている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、入居者の意思に任せており、必要に応じて職員が付き添っている。近所の散歩、買い物は日常的に行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室、玄関に鍵はかけられていない。入居者が外出する時には、職員がすぐに気がつくように目が行き届いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、消防署の協力のもと、避難訓練を行う他、災害時を想定した緊急マニュアル、連絡網が整備されている。 特養が隣接されており、特養職員との協力体制も整っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量のチェック、1日の水分量のチェックをチェック表を活用して行っており、状態の変化にすぐに対応できるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は、行事の写真、手芸品、書道などが飾られており、家庭的な生活空間の中で入居者は過ごしている。光はよく差し込み、窓からは山並みが見え、季節を感じることもできる環境である。また、室内は、オゾン消臭システムや窓に加工された光触媒により、清潔な空気が保たれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの好みの物が持ち込まれている。自宅で使っていたものや、飾り物が持ち込まれ、自分の部屋として自由に活用している。		

 は、重点項目。